



神戸陽子線センター

センター長 ごあいさつ



神戸陽子線センター
センター長 副島 俊典

開設 1 年たちました

神戸陽子線センターは昨年の平成 29 年 12 月に開設し、なんとか順調に症例を積み重ね、1 年目を迎えることができました。その間、西オーストラリア州首相一行、日本小児総合医療施設協議会、関西若手放射線腫瘍医の会、兵庫粒子線治療研究会、小児がん関連の患者団体など多くの見学を受け入れてきました。特に本年 8 月 4 日には皇太子ご夫妻をお迎えすることができました。また、放射線腫瘍学会の小児がん講習会を 9 月 15 日に開催することができ、多くの先生方にご参加いただきました。

3 月から先進医療および保険診療での陽子線治療が可能となり、小児がん治療も順調に行っています。鎮静が必要な患児も問題なく行うことができます。成人の腫瘍も前立腺がんや骨軟部腫瘍、頭頸部がん、肺がん、肝がんなどの治療を行っています。

近隣の施設、神戸低侵襲がん医療センターや神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センターとも連携を深め、陽子線治療中の入院や化学療法、口腔ケア、金属マーカの挿入などを行っています。これからも緊密な連携を行っていききたいと思います。

今年は自然災害も多く発生しましたが、大きな被害もなかったのもよかったです。今後もスタッフ一同よりよい医療を行っていきたくと思っていますので、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

基本理念

科学的根拠に基づき、がん医療の未来を拓く
陽子線治療を推進します。

基本方針

1. 最先端の陽子線治療施設として高精度の放射線治療を提供します。
2. がん医療の進展を反映した陽子線治療を行います。
3. 小児がんに重点を置いた陽子線治療を提供します。
4. 患者さんの意思を尊重し、正確な医療情報に基づいた信頼される医療を行います。
5. チーム医療を基本として、暖かい医療を推進します。



兵庫県立粒子線医療センター附属
神戸陽子線センター
Kobe Proton Center

平成30年度上半期の治療実績について

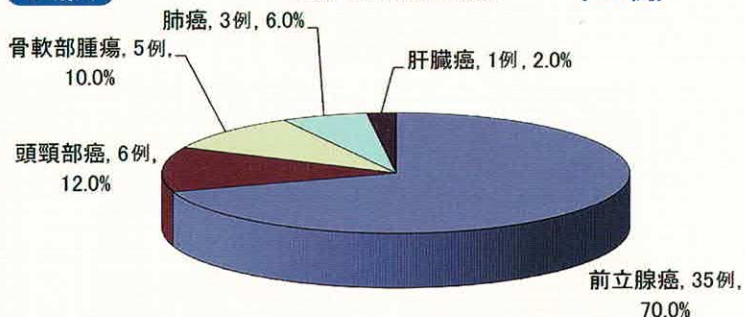
神戸陽子線センターは平成29年12月1日に開設し、平成30年3月に先進医療を実施できる医療機関として登録され本格的な治療を開始しました。

平成30年度上半期の治療実績は次のとおりでした。

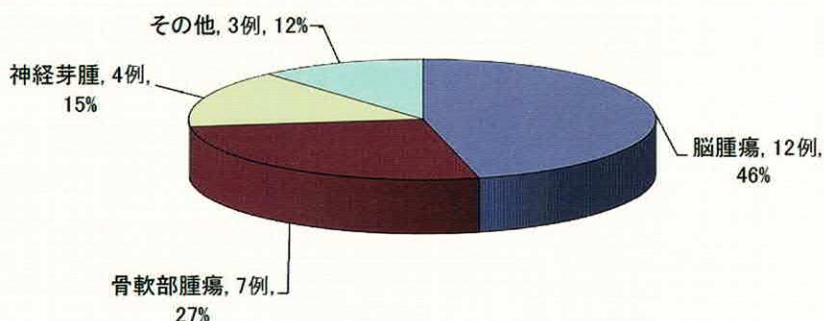
期間はいずれも平成30年9月末までです。

※ 右記のうち、鎮静ありは11例、鎮静なしが15例でした。

1 成人 <成人の治療実績> (50例)



2 小児 <小児の治療実績> (26例)



前立腺癌の治療期間が短くなります

前立腺癌の患者様に対しては今まで37回(7~8週間)の治療期間で治療を行ってきました。前立腺癌は、病気の特徴から1回の線量を多くして治療期間を短くすることが理論上有効ということが知られています。近年、X線治療でも1回線量を多くして治療期間を短くすることで、従来と同等の安全性と治療成績が得られることがわかってきました。

当センターでは治療期間の短縮化に以前から準備を進めてきましたが、整いましたので**2018年11月1日から短期間での治療を開始**します。これにより、従来の**37回(7~8週間)から21回(4~5週間)**になります。照射時間は約5分、院内に滞在する時間は蓄尿や位置合わせを含めて約1時間と従来と同じです。

治療期間が短縮化することで、仕事や日常生活への復帰が早くなること
が利点です。



「陽子線治療看護を確立します 開設1年 看護科の取り組み」

看護科長兼地域医療連携課長 大塚 厚子



神戸陽子線センター マスコットキャラクター

Proとん
です！
よろしくね♪

☆ご挨拶☆

平成29年12月1日付けで当センター開設に伴い、赴任しました大塚と申します。兵庫県立粒子線医療センターより異動してきました。この度は、看護科長兼地域医療連携課長に任命され、職責の重さを実感しています。この1年、小児がんに重点を置いた陽子線治療を提供する施設として、小児治療（鎮静）の医療体制作りや兵庫県立こども病院との連携、そして成人治療は看護実践力の向上に取り組んできました。

今後も、チーム力を高めながら0歳～90歳代までの全ての年代の患者さんを支援し、陽子線看護を確立していきます。

☆看護科紹介☆

「3つの看護の専門性を追求します」



目指す看護

【成人】

- ・患者の意思決定を支援し、患者のセルフケア能力を引き出し高める看護実践

【小児】

- ・小児がん治療を受けるこどもと家族の思いを尊重した看護実践
- ・「明日も来るね」という気持ちが継続できる看護実践

私たち看護科は、粒子線医療センターから3名（私を含め）、こども病院から2名が異動し、（6月から小児看護経験1名増員）それぞれの経験や強みを発揮し看護ケアを実践しています。

☆成人の治療☆ 粒子線医療センターと連携

粒子線医療センターでの看護経験を活かし、自宅での生活や社会背景に視点を置き、個々の患者のセルフケア能力を引き出し高める看護実践をしています。高齢の方や遠方の方は、近隣の神戸低侵襲がん医療センターに入院して通院されています。

☆小児の治療☆ こども病院と連携

①多職種カンファレンスでは、治療体位や固定具、鎮静・非鎮静下の決定などの検討 ②プレパレーションでは、来院を楽しみにできるような取り組み ③鎮静下のチーム医療体制では、1日4件の鎮静治療ができる体制作り。患児の治療完遂や安全でスムーズな治療（鎮静・非鎮静）が出来るように、この3本柱を中心に実践しています。



☆患者支援室☆

他施設との連携と電話相談（治療前の患者家族からの治療等の相談）

神戸低侵襲がん医療センター（入院・肝肺マーカー留置・歯牙処置など）・神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター（前立腺マーカー留置）と連携しています。

